

【居住者プロファイリングデータ_因子】

| No. | 因子名 | 特徴 |
|-----|--------------------|---|
| 1 | ニューファミリー性因子(都心・近郊) | 25～39歳人口、0～9歳人口が多い。逆に高齢人口は極端に低い。マンション住まいが多く、労働力人口はきわめて高い。都心や政令指定都市、県庁所在地など人口密集地で得点が高い。 |
| 2 | マイホーム、核家族性因子 | 持ち家一戸建て比率が極めて高く、核家族世帯も多い。5～14歳の子供が多い。20歳代一人暮らしが少ない。3大都市圏などの地価が高いエリアは因子得点が低い。 |
| 3 | 三世代、大家族性因子 | 核家族が少なく、持ち家一戸建て世帯が多い65歳以上の親族のいる世帯数が多く、第一次産業就業者が比較的多い。郊外が因子得点の高いエリアが多い。 |
| 4 | 高齢者農村性因子 | 65歳以上比率が高く、2・30歳代人口が少ない。第一次産業就業者が多く、持ち家、一戸建て比率も高い。農村、漁港など1次産業が盛んなエリアが因子得点の高い傾向にある。 |
| 5 | ニューファミリー性因子(都心・郊外) | 30～44歳人口、0～14歳人口が多く、団塊世代の構成比が低い。マンション居住者が多く、因子1と分布エリアが重複するが、こちらの因子のほうが郊外にも点在している。 |
| 6 | 製造業性因子 | 製造業就業者が極めて高い。単身世帯が比較的少なく、持ち家比率が高い。人口密集地を取り巻くように因子得点の高いエリアが分布している。 |
| 7 | 郊外ファミリー性因子 | 40～54歳、10～19歳人口の構成比が高い。若干ではあるが、大家族性、持ち家、一戸建ての特徴も見受けられる。人口密集地に因子得点の高い箇所は少なく、郊外に得点の高い箇所が多い。 |
| 8 | 社宅居住性因子 | 社宅に住む構成比が高く、公務員が多いエリア。ニューファミリー性の特性もあり、40歳以上人口は少ない。因子得点の高いエリアに特徴は少なく、全国に点在している。 |
| 9 | 公団居住性 | 公団、公社住宅に住む割合が高いエリア。失業率が非常に高い。建設、運輸といったガテン系への就業も多い。因子得点の高いエリアは大阪で特に多い。 |